

# しんち九条の会だより

第15号  
2008/1/25

## ユートピア

### しんち九条の会代表 目黒 美津英

- ◆・・・新年あけましておめでとうございます。  
年頭にあたり皆様のご多幸とご繁栄をお祈りいたします。  
ことしは、戊（つちのえ）子（ね）の年です。戊は「ほこ」であり、子は子供です。このことから今年の状況はさまざまな変動があると思われまます。
- ◆・・・正月もあっという間に過ぎてしまいました。元日から数日間はそのほど寒くもなくおだやかな年明けでした。  
昭和30年代までは、新地町（当時は村）は旧暦の正月でした。農漁業が産業の柱であり、生活が旧暦に即していました。
- ◆・・・旧正の頃は雪も降り、また漁業もちょうど不漁になり都合がよかったです。  
旧暦の正月から新暦の正月に移行することは、村当局で進め、その担当は公民館でした。  
当時私は公民館職員で、直接この仕事に携わりました。
- ◆・・・村民からアンケートをとって意向を確かめましたが、旧暦の正月存続の声もかなりありました。  
しかし時代の流れは、大きく変わりつつありました。都会で働いている子供たちや、出稼ぎの人たちが、新暦正月の休みになり帰郷すると具合が悪いことになりました。
- ◆・・・一方農漁業の兼業化が急速に進んできていました。こうした背景があって、新暦正月に移行しました。  
旧正月の頃は、新年になると「よい春になりました。」とお互いにあいさつをしました。いまは正月を迎えても、当時のような情緒的な挨拶も聞かれなくなり、また正月行事も、すっかり姿を消してしまいました。
- ◆・・・時代の進展は、急速に伝統的な風習を変えてゆきます。そして人と人との絆（きずな）や人情が薄くなってゆくように思われます。  
しかしどんなに時代が進展しても、人との絆や、人情を大事にしてゆきたいものと思えます。



### 日本国憲法第9条

日本国民は正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては永久にこれを放棄する。

前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力はこれを保持しない。国の交戦権はこれを認めない。

### しんち九条の会の活動

しんち九条の会も今年で3年目を迎えることとなります。今までいろいろの事業をしてきましたが、今年も何か皆さんに喜んでもらえるような催しをしたいと思っています。

何かご希望がありましたら事務局までご遠慮なくお申し出ください。

憲法を改めようとする動きも着々と進められているようです。

油断はできませんね。

### カンパご協力御礼

しんち九条の会に対して次の方々より多大のカンパご協力を頂きました。

小川 佐々木 萩夫様

佐々木 勝子様

ありがとうございました。

# 戦争は人間を悪魔にする

小川 寺島幹雄氏語る

## その2 南京大虐殺

1937年12月、南京に侵攻した日本軍が、侵攻中及び占領下において当時の南京市政府行政地域の中国軍民に集団殺戮、個別殺戮、強姦、放火、略奪等を加えた。これが南京大虐殺である。

この大虐殺で犠牲になった中国人は数知れない(一説には30万人ともいわれている)。そしてその様子はあまりにも酷いものであった。

戦意を失って投降してきた兵士、捕虜に対して、これらの兵士を広場に集めたり、集団のまま窪地に連行して、重機関銃掃射したり、クリークや揚子江岸の前に集めて後ろから機関銃や小銃で殺害している。少ない時は、3人、5人又は10人単位だが、多いときには500人や1000人単位のこともあった。死にきれないでいる中国人を、兵士が死体の山に上がって小銃や銃剣でとどめを刺している。時には捕虜を一時的に貨車や倉庫に詰め込んで100人、200人単位で引き出してきて殺害したり、数人ずつ棧橋に向かって走らせ、隠れた所からから機銃掃射したり、倉庫や兵舎に詰め込んだまま焼き殺すこともあった。また、鉄棘線で囲んだ中に何百人もの捕虜や民衆を入れて、事前に埋めてあった地雷で一度に爆殺することもあった。さらには、爆弾を節約するためにこれらの中国人をもっぱら銃剣で刺殺したり、あるいは鉄線で数珠つなぎにして、河辺や池のふちに連れて行って、岸や船の上から突き落とすという方法もとられた。

12月13日、南京を脱出しようとする大群衆や逃走しようとする兵士らは、揚子江の江上を船や小船、筏に乗って対岸に逃れようとしていた。これらの中国人をめがけて陸上からは軽装甲車部隊や機関銃部隊が機銃掃射を、江上の艦船からは機銃掃射や砲撃が加えられた。無差別殺戮であった。

また日本兵たちは、捕まえてきた中国人たちを、時には初年兵の「肝試し」といって刺突訓練の対象にしたり、ゲーム感覚で中国人の首をはねたり、生き埋めにしたりした。

強姦については、日本軍の行く先々で起きた。とくに南京陥落後の中国人婦女子に対する強姦は凄まじいものがあった。兵士たちは3人、5人と徒党を組んで女性を探しだし、家の中でも路上でも所かまわず強姦した。邪魔する者は容赦なく殺害された。

上記の南京大虐殺について、参戦兵士などへの聞き取り調査の結果、次のような証言が得られている。「戸板や木っば船で逃げる中国人を各中隊が一斉射撃をした」「捕虜を筏で流し、私が重機関銃で撃ち殺した」「普通の男も殺せと言われ、殺すことに罪を感じなかった」「千二百人の捕虜を一気に処分、飛び散る肉片」「倉庫に詰め込んだ老若男女の中国人を焼き殺した」「南京攻撃は民間人の区別なしでした」「千名の捕虜をトラックで運んで処分した」「自分らが殺した中国人の死体を一週間かけて河に流した」「中国人に頭から油をかけて焼き、銃剣で止めをさした」「広場では万に近い中国人を収容、銃声が聞こえていた」「光華門に逃げ込む105人を撃ち殺した」「人の死体を踏んで歩いた」「自分の中隊だけで三千人の敗残兵を殺した」等々

全ての日本兵が虐殺に加わったわけではない。しかし、自分の母親が強姦されるなどの無惨な様子を目の当りにした子供たちは、やがて大人になり、その残虐な日本兵の行為を自分の子供や孫に語り継いでいったのであろう。中国の人々は、今でも日本人を許していない。(次号につづく)

